

平成 28 年度の事業について

地域公共交通再編実施計画について

1. 地域公共交通網形成計画 と 地域公共交通再編実施計画 とは

地域公共交通網形成計画(網形成計画) …平成28年3月末策定済(地域公共交通再編事業に関する事項を記載)

・持続可能で利便性の高い地域公共交通網の形成を進めていくための基本的な方針、取り組みの方向性、目標、事業等を取りまとめた計画。

地域公共交通再編実施計画(再編実施計画)

- ・地域公共交通網形成計画を実現するための計画。
- ・事業者等の同意が必須。

2. 地域公共交通再編事業とは

…地域公共交通を再編するための事業

(第1号)
特定旅客運送事業に係る路線・運行系統・
航路又は営業区域の編成の変更
(バス路線の幹線と支線の分割 等)

(第2号)
他の種類の旅客運送事業への転換
(旅客鉄道から路線バスへ転換 等)

(第3号)
自家用有償運送による代替
(バス路線の幹線と支線の分割 等)

(第4号)
第1～3号の再編事業と併せて行う運行計画の改善、
共通乗車船券の発行、乗降場の改善等
(異なる公共交通事業者等間の旅客の乗り継ぎを円滑に行うための運行計画の改善)



3. 網形成計画・再編実施計画の策定によるメリット

- 地域の取り組みが計画的に進められることで、限られた資源が有効に活用され、持続可能な地域公共交通網の形成が図られる。
- まちづくりと連携した面的な公共交通ネットワークを再構築するため、網形成計画を策定することで、コンパクトな都市構造の実現を支援することができる。
- 策定過程において、関係者と協議を重ねるとともに、交通事業者の事前同意を得るほか、協議が整った事項についてはその結果を尊重することが法律上求められていることなどから、地域全体の合意と事業の実効性が担保される。
- 国土交通大臣の認定を受けることにより、財政的支援や手続きのワンストップ化などの、関係法令の特例措置を受けることができる。

4. 再編実施計画の記載項目

再編実施計画・・・具体的な運行事業者やダイヤなど
運行計画を定めるもの。

策定した網形成計画にもとづき、再編に伴う各路線の
運行事業者や運行経路・停留所・運行回数・運賃体系など、
詳細な部分まで記載する。

〔記載項目〕

実施区域

事業の内容・実施主体

(1)再編内容の全体像

(2)再編内容の詳細（ルート・運行回数等・運賃 など）

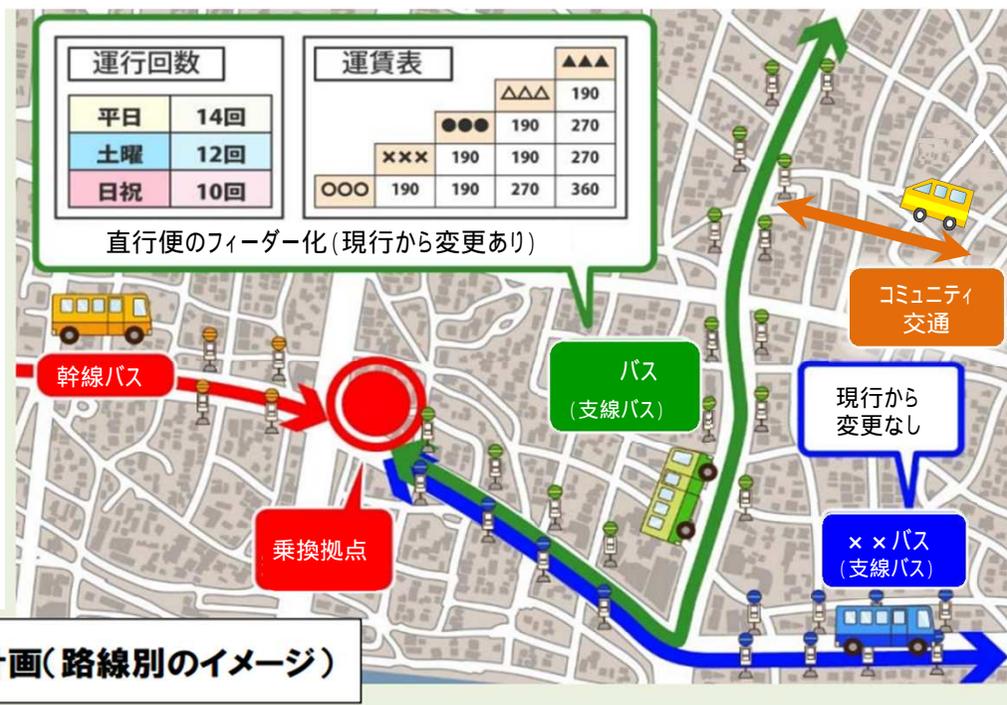
地方公共団体による支援の内容

実施予定期間

事業実施に必要な資金の額・調達方法

事業の効果

など、その他必要事項



地域公共交通事業一覧

事業名	実施主体	専門部会	事業スケジュール		
			現況	前期 (H28年度～H32年度)	後期 (H33年度～H37年度)
事業(1) ゾーンシステムの導入	熊本市、嘉島町、近隣自治体、 交通事業者	基幹公共交通部会 バス路線網再編部会	\	検討・実施	
事業(2) 乗換拠点の整備	熊本市、嘉島町、近隣自治体、 交通事業者	基幹公共交通部会 バス路線網再編部会		検討・実施	
事業(3) 快速バス等の導入	熊本市、交通事業者	基幹公共交通部会		検討・実施	
事業(4-1) 公共車両等の走行環境の改善 バス専用(優先)レーン、PTPS	交通管理者、熊本市、 道路管理者	基幹公共交通部会	実施中	拡大検討	拡大実施
事業(4-2) 公共車両等の走行環境の改善 ボトルネック交差点の改良、バスベ이의整備	道路管理者	基幹公共交通部会	実施中	拡大実施	
事業(5) バス・鉄軌道等の輸送力の向上	熊本市、交通事業者	基幹公共交通部会	実施中	拡大実施	
事業(6) メイン・サブターミナルの整備	熊本市、再開発事業者	基幹公共交通部会	実施中		
事業(7) 環状線の導入	交通事業者、熊本市	バス路線網再編部会	実施中	検討・実施	
事業(8) 都市バスを中心としたバス路線網の 効率化	交通事業者、熊本市	バス路線網再編部会	\	検討・実施	
事業(9) 競合路線の改善	交通事業者、熊本市	バス路線網再編部会		実施中	拡大検討・実施
事業(10) 統一時刻表・共同路線図の導入	交通事業者、熊本県バス協会、 熊本市	バス路線網再編部会	実施中	拡大実施	
事業(11) バスロケーションシステムの導入	交通事業者	バス路線網再編部会	\	検討・実施	
事業(12) 市電ロケーションシステムの導入	交通事業者(熊本市交通局)	基幹公共交通部会		検討・実施	
事業(13) バリアフリー対応車両の充実	交通事業者	基幹公共交通部会 バス路線網再編部会	実施中	拡大実施	
事業(14) 電停のバリアフリー化(電停改良)	熊本市、交通事業者	基幹公共交通部会	実施中	拡大実施	
事業(15) パークアンドライド(P&R)等の整備	熊本市、嘉島町、近隣自治体、 交通事業者	基幹公共交通部会	実施中	拡大実施・検討	
事業(16) 公共交通の利用促進	熊本市、嘉島町、近隣自治体、 交通事業者、熊本県バス協会	バス路線網再編部会	実施中	拡大実施・検討	
事業(17)公共交通空白地域等への コミュニティ交通の導入	熊本市、地域住民	コミュニティ交通部会	実施中	拡大実施	
事業(18) 新たなコミュニティ交通の導入	熊本市、地域住民	コミュニティ交通部会	\	検討・実施	

…地域公共交通再編事業

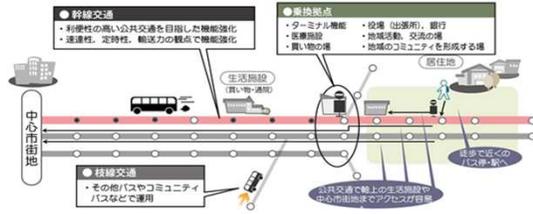
地域公共交通再編実施計画策定スケジュール(案)

業務内容	平成28年度								平成29年度								
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
再編実施計画の策定	策定作業								申請	認定							再編事業の実施予定
熊本市、関連市町村、交通事業者等による個別協議	←				随時実施				→								
公共交通協議会	第1回 8/24 ●再編実施計画の進め方	←				必要に応じて、適宜開催				→							
基幹公共交通部会	←				必要に応じて、適宜開催 (年2~3回を予定)				→								
バス路線網再編部会	←				必要に応じて、適宜開催 (年2~3回を予定)				→								
コミュニティ交通部会	←				必要に応じて、適宜開催 (年2~3回を予定)				→								
議会(報告)																	

1. 基幹公共交通軸の強化の目的

平成28年3月に策定した「熊本地域公共交通網形成計画」において熊本中心部と各方面の地域拠点等を結び8つの軸を「基幹公共交通軸」と位置づけ。

基幹公共交通軸について、速達性(平均旅行速度)、定時性(遅れ時間)、快適性(輸送力:車内の状況)を強化することで、公共交通の高いサービスを提供し、移動における自家用車から公共交通への転換を促すことを目的。



2. 昨年度までの主な取り組み成果について

熊本地域公共交通網形成計画の策定

「熊本地域公共交通網形成計画」において基幹公共交通軸として位置づけた8方面について、各軸の特性に応じて「ゾーンシステム乗換拠点」、「鉄道駅乗換拠点」、「地域拠点乗換拠点」を設定し、方面別の展開方針を示した。



方面	拠点候補地
植木・北部	【ゾーンシステム乗換拠点】植木周辺 【鉄道駅乗換拠点】上熊本駅、植木駅 【地域拠点】北部総合出張所周辺地区
堀川・合志	【ゾーンシステム乗換拠点】御代志周辺 【鉄道駅乗換拠点】堀川駅 【地域拠点】子飼地区
楠・武蔵ヶ丘・光の森	【ゾーンシステム乗換拠点】楠団地周辺 【鉄道駅乗換拠点】竜田口駅、武蔵塚駅、光の森駅 【地域拠点】武蔵ヶ丘地区、子飼地区
長嶺・小峯	【ゾーンシステム乗換拠点】小峯営業所周辺 【鉄道駅乗換拠点】新水前寺駅 【地域拠点】長嶺地区、水前寺・九品寺地区
健軍・益城	【ゾーンシステム乗換拠点】健軍電停周辺 【鉄道駅乗換拠点】新水前寺駅 【地域拠点】水前寺・九品寺地区
嘉島・城南	【ゾーンシステム乗換拠点】イオンモール熊本周辺 【鉄道駅乗換拠点】 - 【地域拠点】城南総合出張所周辺地区、南熊本駅周辺地区
川尻・富合	【ゾーンシステム乗換拠点】リバグリーン八幡周辺 【鉄道駅乗換拠点】川尻駅、西熊本駅 【地域拠点】南熊本周辺地区
城山・小島	【ゾーンシステム乗換拠点】小島産交周辺 【鉄道駅乗換拠点】 - 【地域拠点】城山地区周辺

3. 今年度の取り組み

乗換拠点整備の検討

基幹公共交通軸のうち、熊本地域公共交通網形成計画において優先的に整備をすすめることとした「植木・北部方面」、「城山・小島方面」および「嘉島・城南方面」を対象として、各拠点に求められる機能、具体的な候補地・施設、整備規模を検討する。
熊本地震による被害状況に応じて対象とする方面を変更する可能性あり

機能	整備内容
ターミナル機能	バス待機場、バス回轉場、バスベイ等
待合環境機能	上屋、ベンチ、待合所、トイレ等
交通結節機能	駐車場(P&R)、駐輪場(C&R)、送迎場(K&R)、対面乗換え等
情報提供機能	バス接近情報(バスロケ)、行き先案内等
拠点機能	商業施設等



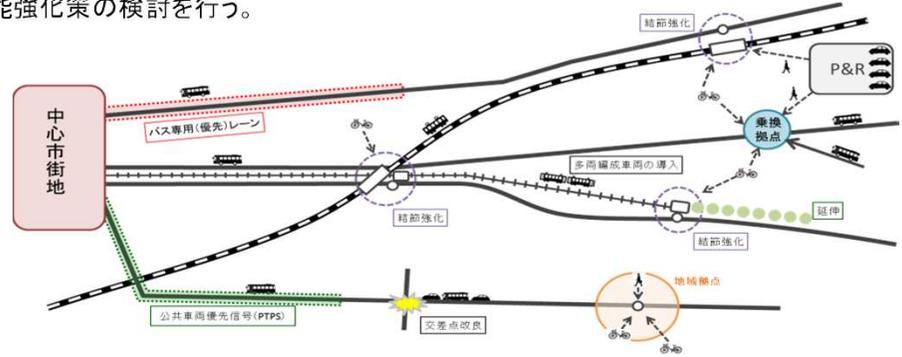
待合環境の向上



対面乗換え

基幹公共交通軸強化策の検討

上記3方面について、基幹公共交通の定時性・速達性・輸送力の向上に向け、機能強化策の検討を行う。



乗換拠点整備、基幹公共交通軸強化策の検討にあたっては、次の項目について検討を行う。

検討項目
現況の把握
整備内容・箇所
課題と対策の整理
整備効果の検討

バス路線網再編部会

1. バス路線網再編の目的

- バス利用者数の減少 運賃収入が減少 事業者の経営悪化
路線の減便・廃止 サービス水準の低下 更なる利用者数減 ……
<バス交通における負のスパイラル>
- このままでは、バス路線網の維持・確保が非常に困難
- 持続可能な公共交通網の形成が必要不可欠
バス路線を再構築し、効率的で利便性の高いバス路線網へ再編する。

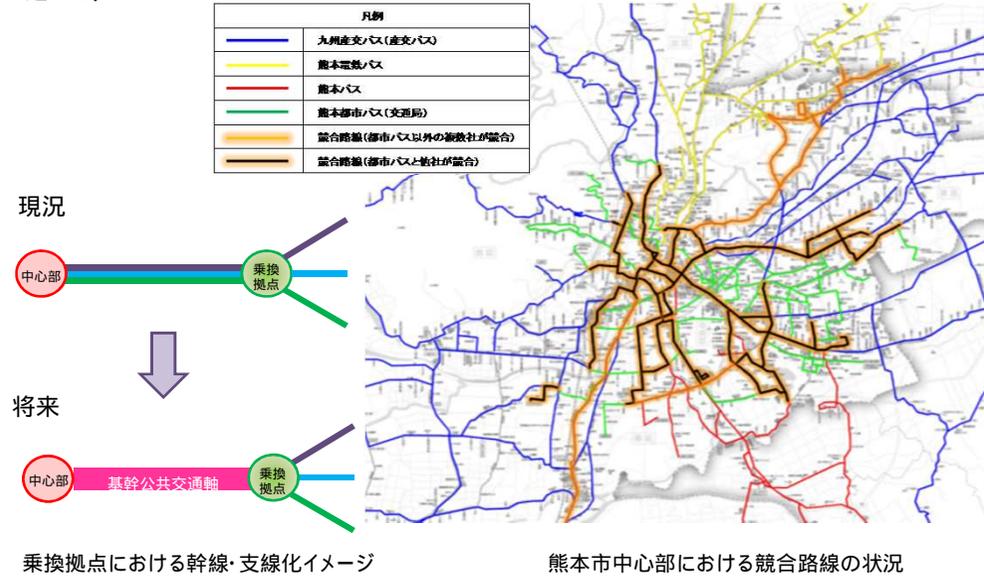
2. 昨年度までの取り組み状況と成果

- **統一時刻表・共同路線図の導入**
<主な取組状況>
* 統一時刻表: 旧57号線、旧3号線
* 共同路線図: H24年度・4路線、H25年度・3路線
- **競合路線のダイヤ改善**
<主な取組状況>
* ダイヤ改善: 旧57号線
- **都市バスを中心としたバス路線網の効率化**
<主な取組状況>
* ダイヤ編成支援システム: H27年度に都市バスに導入
- **ICカード利用環境の構築**
<主な取組状況>
* H27.4 県内の路線バス、熊本電鉄の電車にてくまモンのICカード運用開始
* H28.3 路線バス等での全国相互利用ICカード利用環境構築



3. バス路線網再編のイメージ

- 基幹公共交通を担うバス路線については、乗換拠点において幹線と支線に分け、長大バス路線の効率化を図る。
- 幹線バス以外の日常生活を支えてきた網目状のバス網については、民間バス事業者各社の連携・協力のもと、競合路線の改善など、持続可能なバス網に向けた再編及び効率化を進める。



4. 今年度の取り組み

- **ゾーンバスシステム導入に関する議論** 基幹公共交通部会と連携
* 各基幹公共交通軸上の乗換拠点整備に関する検討を行う。
- **バス路線網の効率化に関する議論**
* 平成27年度に導入したダイヤ編成支援システムを活用して、効率的なバス路線網の再構築に向けた検討を行う。
- **バスロケーションシステム導入に関する議論**
* バスロケーションシステム導入に向けた調査・研究を行う。

